

## 第1分科会①

協議題 未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

研究テーマ 先見性のあるビジョンに基づく創意ある学校経営の推進

提案者 沖縄県名護市立名護小学校 校長 仲宗根 勝也

### 1 はじめに

本分科会は、沖縄県北部の名護市にある大規模校の名護小学校、山林に囲まれた東村にある極小規模校の高江小学校、海に囲まれた瀬底島にある小規模校の瀬底小学校、豊かな自然に恵まれた大宜味村にある小規模校の大宜味小学校の4校で構成された分科会である。4つの市町村で学校規模も大きく異なるため、本分科会では「学校経営ビジョンに基づく創意ある学校経営の推進」の主題のもと、共同研究員個々の学校の特色を生かした経営ビジョンを策定し、各々の実践を通して得た成果や課題を考察し共有しながら研究を深めていくこととした。

### 2 主題設定の理由

グローバル化、情報化が急速に進展する予測困難な社会において、時代の要請・社会の変化に対応できる学校教育の在り方が問われている。学習指導要領では、これからの時代に求められる教育を実現するためには「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、学校と社会がより一層、連携・協働することが求められている。そのためには「社会に開かれた教育課程の編成」が重要であり、校長はこれからの社会を生き抜く子供たちの望ましい姿を思い描き、未来を見据えた明確な学校経営ビジョンを示し、学校経営に努めなければならない。学校経営ビジョンについて村瀬(2020)は、「学校組織の成員(教職員だけでなく児童生徒、さらには保護者等も含む)の教育・学習の実践に際して思考と判断の拠り所となり、「自分はどこを向いて何をすればよいのかが分かる」もの。誰もが共有できるイメージとしてある程度の具体性を持つと同時に、成員の個性や創意工夫を保護するだけの幅のある抽象性を兼ね備えている。」<sup>1)</sup>としている。そこで、本分科会では、その定義に依拠し、明確でわかりやすい学校経営ビジョンを策定し、それを、教職員だけでなく児童・保護者・地域に共有することで、学校や地域の特色を生かした創意ある学校経営ができると仮説を立て、以下の視点で研究を推進した。

### 3 研究の視点

- (1) 明確なビジョンの策定と共有
- (2) 創意ある学校経営の推進

### 4 研究の実際

#### (1) 名護市立名護小学校の実践

本校は名護市街地の中心部に位置し、創立141年目を迎える伝統校である。琉球で初めての学校(明倫堂)を建てるなどして教育を広め、後に名護間切の総地頭(名護親方)となった程順則の「六諭衍義」をもとにした「六諭のこころ」を目標に実践を展開している特色がある一方、学校目標もあるため、ダブルスタンダード的な目標となっていると感じた。そこで、児童や教師が「何をすればよいのかが分かる」ビジョンをつくり、それをコンパスとすることで、「どこに向かう」かがわかる明確なビジョンになるのではないかと考えた。

#### ① 明確なビジョンの策定と共有

- ア 思考の拠り所となる4つの「きく」を赴任年度当初に学年主任会で協議し策定した。
  - ・「聴く」傾聴、他者尊重、自己肯定感の向上
  - ・「訊く」質問、主体的な学び、支持的風土
  - ・「利く」気づき、目配り、環境、他者理解
  - ・「効く」効果の可視化、評価、SDGs
- イ 教職員の個性や創意工夫を保護する組織・任せる組織として「チーム シップス 名護」をスローガンとする。一つの船→船団へ
- ウ CS(学校運営協議会)で学校経営ビジョンの承認を行うとともに、目指す家庭・地域像について協議(ワークショップ)を行った。また、CSの柱を「熟議」とし、学校課題だけでなく、家庭・地域の課題も熟議した。
- エ 校長講話で「きく」コンパスの話をも2回実施し全児童に共有後、学校だよりで全保護者へ発信し共有した。
  - ・「聴く」目と耳と心できく
  - ・「訊く」質問する。わからないことをわからないままにしない
  - ・「利く」困っている人、環境などに気づく 気づいたら行動する
  - ・「効く」粘り強く取り組む

#### ② 創意ある「きく」学校経営の推進

- ア 「きく授業」を推進し、授業のリフレクションをタブレット端末を活用し、全職員の声が共有できるようにするとともに、子供の学ぶ姿を中心に研究協議を行った。
- イ 児童会を中心にクラブ活動の種類や休み

時間の過ごし方について、協議させ実施した。

ウ 「子供の声が届く学校」を目指し、児童の学校評価の分析結果を児童へ示すとともに、特に、児童の意見や要望については、校長講話で回答した。

エ 「保護者の声が届く学校・地域」を目指し、授業参観日に保護者の声を聴く会として、管理職とPTA役員、CS委員を図書室に待機させ、懇談・相談の場とした。

オ 学校課題を軸にプロジェクトチーム（学力向上、校内研究、生徒指導）を機能化させ、全教職員が主体的・創造的に学校課題に取り組めるような体制を構築した

カ 幼稚園教諭と協議し、より幼稚園生活に近いスタートカリキュラムへと見直すとともに、1年生教室前に大きな砂場をPTA作業で作成し、教室には、遊びボックスを設置した。

キ 始業時の号令の代わりに「名護ストレッチ」を導入し体幹を整えることで授業への集中力向上を図った。

④ 校長の関わりと今後の方向性

ア 校長講話や集会での話、学校だよりや校長コラムなど様々な発信の場で、学校ビジョンを意識して行うことで、共有を図る。

イ 学年・学級目標や教職員評価システム、学校評価の視点にも「きく」を位置づけ、カリキュラムマネジメントの充実を図る。

ウ 支持的風土のある学級、風通しが良く学び合いのある職員室など「きく学校」として地域とともにある学校経営を推進する。

の学校への関心は高く、小規模校や地域の優位性を最大限に生かす学校経営に取り組んでいる。

① 明確なビジョンの策定と共有

ア 校長が赴任1年目に捉えた児童・保護者・地域・教職員の実態や、学校評価等から見えてくるそれぞれの思いなどを踏まえて、年度途中に経営ビジョンやキーワードを策定。

イ 学校や地域の特色を生かして「保護者・地域に開かれ共に歩む信頼され魅力ある学校」をつくるという学校経営ビジョンの最重要テーマを職員・児童・保護者・地域に示し、「高め合い」「協働」をキーワードとして実践。

ウ 学校便り、学校HP、週案メッセージ、校長講話等で繰り返し触れ共有を図る。

② 創意ある学校経営の推進

ア 地域の教育資源（人・物・事）を効果的に活用するとともに情報を積極的に発信する。

- 各学年のカリキュラムマネジメント表の具体案を提示し積極的活用を提案

イ 外部専門機関等との連携を積極的に行い、瀬底島の希少性・卓越性について学習する海洋プログラム等を実施し、ふるさとに誇りと愛着を持つ児童を育む。

- 5・6年生を対象にシュノーケリング体験学習やサンゴ観察等を保護者・地域・関係機関との協働で実施。その様子や成果を児童がホームページで発信。
- 全幼児児童による遠足（瀬底の磯歩き）やグラスカヌー体験、3・4年生のウミガメ学習等の海洋学習を実施。
- 各種体験を通してSDGsへの関心が高まり、多様なアイデアで学習活動を展開。

ウ 本校の魅力ある効果的な取組を継続。（運動会・学習発表会における地域の伝統芸能継承の取組、親子で夢ファイル、朝のスロージョギング、縦割り活動等）

(2) 本部町立瀬底小学校の実践

本校は本部半島西方の瀬底島に位置し風光明媚な場所にある。四方を海に囲まれ美しいサンゴ礁の海を有しているため、観光客や世界中のサンゴ礁の研究者が毎年島を訪れている。

児童は全体的に素直で礼儀正しく、学習や各種活動に前向きに取り組む子が多い。保護者や地域

③ 校長の関わりと今後の方向性

ア 学校経営ビジョンを明確にし、発信や共有の方法を工夫し、職員・児童・保護者・地域との協働体制で推進する。

イ 学校便り等を通して、校長が学校経営上大事にしている想いを伝える。学校の様々な教育活動や児童の頑張り、保護者・地域の関わりについて価値付けを行い、持続可能で魅力的な学校経営を目指す。

ウ 学校経営ビジョンの具現化のために作成した各種シートを教職員評価システムと関連付けることにより、教職員のカリキュラムマネジメントへの参画を促し、ベクトルを揃え推進を図る。

(3) 東村立高江小学校の実践

本校は沖縄本島北部、東村の北端に位置する山原の豊かな自然に囲まれた風光明媚な高台にあり、創立115年の歴史と伝統ある1区1校の極小規模校である。(平成28年度中学校は統廃合の為閉校)

本校児童は、明るく素直で何事にも前向きに取り組むことができる児童が多い反面、人間関係の固定化等、少人数ゆえの課題がある。

そこで「地域に根ざし小規模校のよさを活かした教育活動を推進し、互いに認め学び合い、一人一人の良さや可能性を引き出し伸ばす学校づくり」を学校経営の理念とし、課題解決に向け地域の教育資源を活用した教育活動を推進している。

① 明確なビジョンの策定と共有

ア 極小規模校の現状と児童の実態把握

イ 学校、地域の課題把握(保護者地域の願い)

② 創意ある学校経営の推進

ア「豊かな関わり」を育む授業づくり

- ・授業での地域教育資源(人材)の積極的活用
- ・タブレット端末を活用した授業づくり
- ・合同学習や村内他小学校との集合学習
- ・修学旅行 ・水泳学習 ・てい一だ学校等
- ・豊かな感性を育む読書活動
- ・一斉読書 ・ビブリオバトル等
- ・集会活動における異学年交流の工夫
- ・ゆんたくタイム ・体育朝会等

イ 視野を広げるキャリア教育活動の取組

- ・地域人材や学校職員等によるキャリア講話
- ・モノづくりや栽培活動等の多様な体験活動
- ・保護者の職業技術を活かした体験教室の開催
- ・学校教材園や水田における栽培収穫活動
- ・博物館等の外部教育機関の積極的活用等

ウ 地域・学校課題への対応

- ・学校登り窯復活プロジェクトの継続推進
- ・復活した登り窯を活用した陶芸体験活動
- ・学校教育活動としての位置づけと取組

・学校行事及び地域行事を通した保護者や地域の方々との体験交流の計画実施

エ 学校情報の積極的発信

- ・学校便りの高江区全世帯への配布
- ・学校HP、新聞・TV等マスメディアを活用し、効果的な情報発信の工夫

③ 校長の関わりと今後の方向性

本校赴任2年目、これまでの学校経営ビジョンを継承・発展すべく、学校評価等を基に本校の良さや課題を分析し、全職員共通理解を図り、魅力ある学校づくりを目指し、今年度をスタートさせた。

学校評価アンケート結果を踏まえ、実態把握と理解に努め、様々な機会を通して学校経営ビジョンを示しながら、地域と連携した学校行事や体験学習、生活指導等に取り組むことで、子供への教育効果や保護者や地域からの学校への信頼及び存在意義も高めていけると実感している。

今後も更に本校教育に信頼と期待を寄せる保護者・地域住民、関係機関と連携し、地域教育資源を活用し、本校だからこそできる豊かな体験活動を通した教育活動、カリキュラム開発等にチャレンジし持続可能で魅力的な学校経営に取り組んでいきたい。



(4) 大宜味村立大宜味小学校の実践

本校には「人材を以て資源と為す」の村是を具現化し、将来の大宜味村を担う子供たちの成長に期待する村民の願いが詰まっている。学校経営のビジョンを『ごづくり(学びづくり・仲間づくり・健康づくり・魅力ある学校づくり・地域づくり)』として掲げ、村民の願い、信託に応える学校づくりに努めている。

① 明確なビジョンの策定と共有

ア 教職員への働きかけ

教職員が一目で学校のグランドデザインを理解できるようにした。これにより児童の資質・能力を育むための方向性を共有するとともに、全職員で全校児童を育てていこうという学校組織の風土をつくる。

イ 児童への働きかけ

校長講話で村の魅力（自然・文化・歴史）について共有し生活科や総合学習での学びに繋がっていることを理解させ、学ぶ意義や喜びを捉えさせる。

ウ 家庭・地域への働きかけ

学校経営ビジョン具現化への取り組みが伝わるような様々な情報手段を活用し、積極的な公開・開示に努める。

・琉球大学と連携し、大学での体験学習を行う。

（講義・新聞づくり・学食等）

ウ 家庭地域への学校情報の積極的な公開と開示に努める。

・学校便りの村民全世帯（1400）への配布。

・行政無線放送を通じた学校行事等の告知。

③ 校長の関わりと今後の方向性

ア 教育課程、教育活動の反省と課題を踏まえ明確な学校経営ビジョンを設定し、職員・児童・家庭・地域に具体的に示し、協働体制で推進する。

イ 校長講話や集会等で、職員や児童に目指す児童像や目標を意識させることで、学校全体の風土づくりに努める。

5 成果と課題

(1) 成果

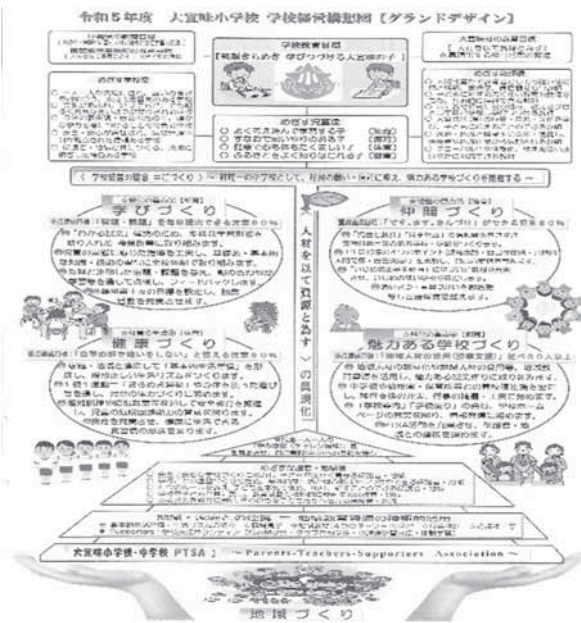
ア わかりやすく明確なビジョンを策定することで児童や教職員、保護者や地域住民と共に、創意工夫のある教育活動が展開できた。  
イ 校長の経営ビジョンを職員・児童・保護者・地域に明確に示し、共有することで、学校経営参画への意識付け、当事者意識が高まった。

(2) 課題

ア 「社会に開かれた教育課程」の推進に向け地域教育資源の開発と積極的活用と進める。  
イ 策定した学校経営ビジョンについてカリキュラムマネジメントを推進し、持続可能で魅力ある学校経営を目指していく。

6 おわりに

本分科会では、研究テーマの「先見性のある」「未来を見据えた」ビジョンとは、どのようなビジョンだろうか」と問いを持ち、共同研究をすすめてきた。その際、グローバル化、情報化が急速に進展する予測困難な社会だからこそ、「自分はどこを向いて何をすればよいのかが分かる」明確なビジョンと創造性を担保できる幅のあるビジョンを研究の視点に、創意ある学校経営を推進した。研究を進めながら、先見性のある学校経営ビジョンとは、不易の「生きる力」の育成を基盤に、学校像、児童像、教師像、家庭・地域像を学校の関わる全ての成員で共有し、多様性を認め、持続可能な方向へと更新をするものであると考えた。「目的地と方向を示し、任せ、責任をとる。」ことが校長の役目であることを胸に、今後も、マネジメントサイクルを活かし研究を推進したい。



② 創意ある学校経営の推進

ア 地域の特色を生かした取組の推進

・地域人材の授業は登用数を年間目標として設定させ、教職員評価システムの目標値と連動させる。

・3年～6年までの「総合的な学習の時間」のテーマを「大宜味村の村づくり4つのキーワード」とし、学年毎にそれぞれ設定する。

【3年＝シークワサー 4年＝芭蕉布  
5年＝長寿 6年＝ブナガヤ自然・文化】  
内容の充実・深化を図る。

・教育委員会や社会福祉協議会等と連携・協力し学習内容の充実を目指す。

イ 視野を広げるキャリア活動取組の推進

・年間計画に「キャリア教育推進月間」を位置づけるとともに「夢語る講演会」を実施し児童のキャリア発達を促す。